

利尻山（1719m）

最果ての海に浮かぶ独立峰

2022 年 4 月 30 日～5 月 1 日

磯部 茂明



稚内から見た利尻山

ずっと心の片隅にあった憧れの山。時間もお金もかかるし、なかなか行くタイミングが無かったが、チャンスは突如やってきた！セントレア→新千歳・・丘珠→利尻（5月はまだ新千歳からの直通便はない）と向かい、クラシックなプロペラ機のタラップを降り立つと、目の前ででーんと利尻が鎮座していた。映画のような感動のスタートだ。

・富士山が海に浮かんだような山容であ

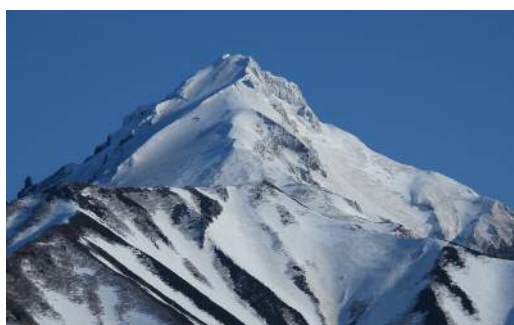
り、山そのものが島である。

- ・遮るものがなく、気象変化をダイレクトに受け不安定。特に強風、視界不良。
- ・森林限界が約 700m のため、わずかに 2000m 弱だが、北アルプス 3000m 級に匹敵する登山レベル。

ここまでで心くすぐられた方は、いつか目指して下さい。きっと今までの山になかった感動が待っています。

日帰りでも約 11 時間でピストン可能

だが、9合目直下の避難小屋から日本海に沈む夕日とオホーツクから昇る朝日を見てみたいため、一泊で目指した。



ペンションから見た利尻 8合目以上

■ 4月30日 晴れ

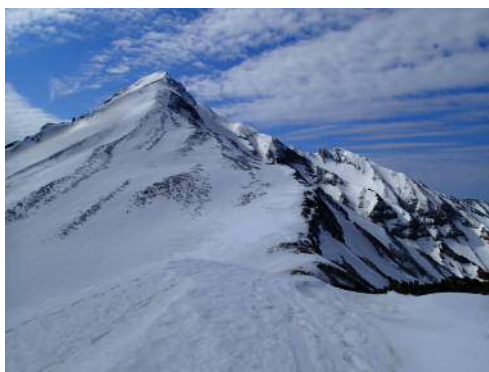
鴛泊コースの北麓野営場からスタート。ペンションから4人の若者といっしょに送ってもらった。下部ルートは夏道を使わず、雪に埋もれた樹林帯の浅い谷地形を進む。夏道の尾根ルートは藪がひどく時間がかかる。当初ルートは谷を進むも雪崩が心配なため、適当な地点から尾根に上がろうと考えていたが、ペンションのオーナーが現地登山ガイドをしている強者で、この時期に雪崩はない、雪をつないでつないで尾根に上がることが時間短縮、というアドバイスを頂いた。なるほどデブリもほとんど無く、雪崩の音もしない、しっかりしまった雪質だった。



最奥が長官山 谷を詰める

広い谷の中、標高約 600m 地点で支尾根が中央に有り左右迷うところだが、右を選ぶ。最後は急斜面で落ちたらどこまで下降するのか・と思ったが、長官山の先で尾根に上がり、すぐ先が避難小屋だった。振り返れば下部から谷を離れ尾根に取り付いたと思われる（朝一緒にスタートした？）登山者が、遙か下方の尾根に見えた。やったね！と思った瞬間。

ここまで来て利尻山頂への全貌が姿を現した。完璧な雪山、シンプルな山容が美しい。除雪してあったため、1F 入口から避難小屋に入り休憩、軽量化しツエルトを張って場所を確保、頂上を目指す。



避難小屋手前から利尻山を望む

うっすらといくつかのトレースは付い

ているが、始めは広い斜面のため最短で淡々と高度を稼ぐ。核心は最後の高度差約 100m。ふきっさらしの雪面は氷化し、この間、アイゼンの歯がしっかり刺さらない箇所もある。部分的に前爪を効かせながら、場所によっては直登を避け、トラバース気味にクリア。富士山と同じで落ちたら止まらないし、久々に緊張した。



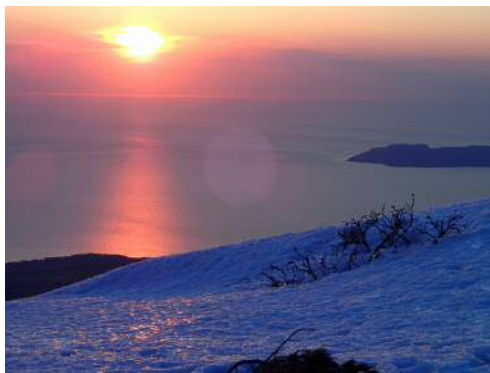
頂上は異次元の景色だった。厳しい雪山をぐるりと囲む下界、さらに取り囲む穏やかな海とのギャップが大きすぎ、「大感動」ではなく「なんじゃこの景色は！笑っちゃう！」が正直な気持ちだった。

ピークにいた 2 人が下山し始めたのち、下山開始。正直、2 人の力量がわからないうちに先行したら、危険箇所で巻き込まれたらイヤだなあと思ったからだ。



2 箇所ほどバックステップでクリア。あとは急斜面でアイゼンをひっかけずに下って行くのみだったが、避難小屋まで長い。当然休憩ポイントはないので疲れた足で緊張感を維持するのがたいへんだった。

当初の計画は、この頂上直下のこなしを避難小屋に泊まった翌日早朝に考えていたが、たまたま 2 日目の天候が下り坂で予定変更、快調だったため初日でピークを踏めたため、早朝のカッチカチ雪面登下降を避けることができて良かった。



日本海に沈む夕日 右奥は礼文島

避難小屋では登ってきた登山者と 2 人のみで、ゆったりと過ごすことができた。

念願のサンセットサンライズは・・・もう感動の極致。言葉では言い表せない。地球にこんなところがあるのか・・・。「地球って自転してるんだ！」を、頭でなく体で実感した。

<タイム>

北麓野営場(4:15) = 600m 付近(6:00 頃)
= 避難小屋(8:35-9:10) = 利尻山頂上
(10:40-10:50) = 大休止 = 避難小屋(12:30)



光射す朝 オホーツク海の果てに 稚内

■ 5月1日 晴のち曇り

翌日、ピストンではおもしろくないので、すぐに谷に降りず（実は斜度もキツく）、少し藪尾根を下りながら適当な地点で谷に降りた。ただ、周囲の景色に特徴が無く見た感じの方位が狂わされるため、コンパス確認をサボってはいけない。事実、風景に見とれ1回谷を間違え、リカバリーでエネルギーを使ってしまった。



日本海と礼文島を見ながら下山

谷に降りれば一気に春山の世界。鳥たちのさえずりを聞きながら、今までの山行とひと味もふた味も違った充実感に浸ることができた。



<タイム>

避難小屋(6:00) = 北麓野営場(10:10)

* ちなみに今回利尻島に4泊。その内の1泊2日を狙って入山。これが当たった。それほど気象条件に左右される山だと思う。

* 「ペンション レラモシリ」で4泊予約。良い宿だった。オーナー（渡辺氏）が登山ガイドで、適切な登山情報が得られたことも重要だった。

また、4泊中1泊は登山中で避難小屋泊まりだったのに、宿泊代は（何も交渉しなかったのに）3泊分しか請求されなかった！

さらに

- ・ 北麓野営場までの送迎があり、しかも無料。
- ・ 荷物は宅急便で送ってもらった
- ・ 朝夕食事しながら利尻山が見える。双眼鏡で上部コースが見える！
- ・ 格安でレンタカーが借りれる。しかも穴場かも。余った日程消費に。

（磯部茂明 記）